

フリーペーパー ペッコ

PECCO



VOL.64 2023.8

発行 岩手県立図書館



読書週間はひとつじゃない!

「えっ、そうなの!?!」と思った皆さん。今回はそめちゃんが、読書週間にまつわるさまざまな歴史をギュッとカンタンにご紹介します!

1 読書週間

期間 10/27~11/9

今年で77回目!

主催: 公益社団法人読書推進運動協議会

いつから? 1947年(昭和22年)



はじまり

終戦の2年後、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

期間

第1回だけ

11/17~11/23

これは11/16から1週間にわたって開かれるアメリカの※「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったもの。【※子供に本に親しんでもらう運動】



各地で講演会や図書に関する展示会が開かれ、その反響はとつとも大きかったんだって!



2回目から現在まで

10/27~11/9

「一週間では惜しい」との声を受け、文化の日をはさんだ2週間となり、それが今でも続いています。

読書の日

「岩手の読書週間」とともに、毎年2月の第1日曜日が「読書の日」と定められましたが、残念ながら浸透せず。社会情勢の変遷とともに廃止されてしまいました。

原因は硬めのネーミング?



青年・婦人読書座談会

岩手の読書週間誕生のきっかけとなったこの座談会。名前を変えながら、今では岩手の読書週間の中心行事になりました。

NOW!



- 1958年 青年・婦人読書座談会
- 1962年~ 本を読むグループのつどい
- 1969年~ 本を読む人々のつどい
- 1983年~ 岩手県読書をすすめるつどい

子ども読書年

2000年5月に一部開館する「国際子ども図書館」のオープンにあわせ、2000年を「子ども読書年」とすることが、1999年8月の衆参両議院本会議で決まりました。

国を挙げて、子どもたちの読書活動を支援しよう! ってことなんだって!



はじまり

「子どもたちにもっと本を」「子どもたちにもっと本を読む場所を」との願いから誕生しました。



期間

1959年~1999年

5/1~5/14

この40年間は、5/5の「こどもの日」を中心とした2週間でした。

2000年~現在

4/23~5/12

子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より、現在の期間に延長しました。



子ども読書年

2000年5月に一部開館する「国際子ども図書館」のオープンにあわせ、2000年を「子ども読書年」とすることが、1999年8月の衆参両議院本会議で決まりました。

国を挙げて、子どもたちの読書活動を支援しよう! ってことなんだって!



2 こどもの読書週間

期間 4/23~5/12

今年で65回目!

主催: 公益社団法人読書推進運動協議会

いつから? 1959年(昭和34年)



はじまり

「子どもたちにもっと本を」「子どもたちにもっと本を読む場所を」との願いから誕生しました。



期間

1959年~1999年

5/1~5/14

この40年間は、5/5の「こどもの日」を中心とした2週間でした。

2000年~現在

4/23~5/12

子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より、現在の期間に延長しました。



子ども読書年

2000年5月に一部開館する「国際子ども図書館」のオープンにあわせ、2000年を「子ども読書年」とすることが、1999年8月の衆参両議院本会議で決まりました。

国を挙げて、子どもたちの読書活動を支援しよう! ってことなんだって!



3 岩手の読書週間

期間 2/1~2/14

今年の2月で63回目でした!

主催: 岩手県読書推進運動協議会

いつから? 1961年(昭和36年)



きっかけ

1958年の秋の読書週間に開催された「第1回 青年・婦人読書座談会」



問題提起

ここでは、県内の読書グループが会し意見・情報交換が行われ、それに刺激を受けた図書館司書らから「岩手は農業県であり、秋の読書週間期間は繁忙期にあたるため、読書活動を行える時ではない!」との声上がる。

しこじやあ、します。

農閑期にあたる冬季に、岩手県独自の読書週間を設定。1961年2月から始められました。



これならゆっくり読書ができそうだね。



今も毎年開催中

手づくり絵本展



1980年に県立図書館で行われた手作り絵本講座がきっかけで、翌年「第1回手づくり絵本展」が開催されました。当時、予想を大きく上回る119編の応募がありました。

岩手県読書をすすめるつどい

今に続くこの活動は、家庭・地域・学校での読書活動に役立つよう、読書推進活動団体の顕彰や講演会、活動実技発表を行っています。読書又は読書活動に関心のある方ならどなたでも参加できます。

標語



最初は、「岩手の読書週間」の趣旨を表現した標語を掲示。1968年からは、秋の読書週間に「読書推進標語」とし県民から公募。入選作の中から岩手の読書週間にふさわしいものを選び、その年の標語として活用しています。



話す写真 見えないものに向かつて

富山 直哉 著 / 小学館

カメラを通して世界と向き合う写真家・富山直哉による写真のはじまりから写真表現の向かう先まで考えを巡らせたトーク集。スマートフォン の普及でネット上に写真が氾濫するいま、大きく概念を変えつつある「写真」について考えるきっかけとなる一冊。著者は陸前高田市出身です。



「時疫」の社会史 18～19世紀の病と人間

浪川 健治 編著 / 解放出版社

「時疫(じえき)」とは病名が不明なやはり病のことである。『雑書』などの史料をひもとき、18世紀から19世紀の盛岡藩・弘前藩における「時疫」の広がりや、飢饉、貧困など、顕在化する社会問題との関連から考察。セイフティ・ネットが機能しない環境下に置かれた人間の生き方を明らかにします。



荒ぶる祈り 蘇民祭とその信仰

えさし郷土文化館 編集 / 出版

若手県を中心に伝わる蘇民祭は、蘇民将来の説話にちなむ行事で、終盤の裸男たちによる蘇民袋争奪は特に有名です。神仏習合の時代から育まれた伝統行事としての蘇民祭について、その諸相から信仰と習俗の淵源を探り、各地の関連資料との比較を交え発信する、えさし郷土文化館による令和4年度開催の企画展図録です。



土の息吹 (写真集)

堀 忠三 著 / 一葉社

北上高地の厳しい自然環境や時代の変遷、そして場当たり的で表面的な農業政策。それでも農業を生業とする人々と、50年近く交流を続け写真に収めてきた堀 忠三の写真集です。どのページをめくっても、そこに生きる彼らのたくましく、あたたかな生の息吹が感じられるでしょう。



3・11 震災を知らない君たちへ

鈴木 利典 著 / ぱるす出版

もし自分が被災者になったなら、もし自分が支援する側の立場だったなら、その時、どうしたらいいのか。震災発生当時の被災地の様子や、その後の避難所での出来事が描かれた一冊です。自らを半分被災者半分支援者と呼び、被災地で子どもたちと支援者に向き合った著者が、震災を知らない子どもたちに語りかけます。



旅人まんが 鉄道篇

山田 英生 編 / 筑摩書房

鉄道が開業して150年を迎える年に刊行された『鉄旅』をテーマとした全13篇のまんがアンソロジーです。『宇宙戦艦ヤマト』『銀河鉄道999』を手がけた漫画家、故・松本零士氏による「銀河鉄道の夜」も収録されています。原作とは異なる雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか。